別記様式第７－２号（要領（Ⅱ）の第１０関係）

産地収益力増強支援事業（養蜂等振興強化推進事業のうち在来種マルハナバチの利用拡大支援事業）に関する事業評価票

都道府県名（産地名）	協議会名	事業実施年度	具体的な取組内容	取組の実施時期、事業量等	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				事業内容	地方農政局長等の意見
						基準年（計画策定時）平成２８年	目標年 令和元年（平成31年）	目標値	達成度合		
埼玉県	北川辺クロマルハナバチ普及協議会	平成28年度	北川辺地域において、「在来種マルハナバチの利用拡大支援事業」を活用し、地域での在来種利用上の注意点を明らかにし、広く周知を図ることで、セイヨウオオマルハナバチから在来種クロマルハナバチへの転換・普及を継続的に実施した。 クロマルマナバチ管理マニュアルを作成し、講習会・検討会・現地巡回を実施し、地域の生産者へ普及拡大を図った。	H28年度 ・検討会2回（8月、3月） ・講習会（8月、3月） ・展示ほ設置（2カ所７群） ・マニュアル作成 H29年度 ・現地巡回指導 H30年度 ・講習会（9月） ・現地巡回指導 ・メーカー同行現地巡回（3月） H31年度（R1年度） ・現地巡回指導	在来種マルハナバチの利用農家数を73.07%以上とする。	7.69%（在来種マルハナバチの利用人数 26人中2人）	78.26%（在来種マルハナバチの利用人数 23人中18人）	73.07%	107%	講習会を開催して地域での在来種利用上の注意点を明らかにし、広く周知するとともに、実証展示ほ場を設置し、現地検討会を開催することでセイヨウオオマルハナバチから在来種クロマルハナバチへの転換・普及を図った。また、クロマルハナバチ管理利用マニュアルを作成した。	成果目標を達成した。
山梨県	（JA中巨摩東部野菜部会）山梨みらい農業協同組合中巨摩東部地区　野菜部	平成28年度	地域で主流のセイヨウオオマルハナバチから在来種への切替えを促進するため、普及センターや県農業試験場と連携して、在来種に適した飼育方法やハウス内環境等についてや、普及に向けた方策について検討を行った。 また、既にクロマルハナバチを導入している農家の圃場を使って、現地講習会も実施し、管内農家への普及を進めた。 セイヨウオオマルハナバチからの切替えを検討している農家に対して、当事業を活用し在来種のクロマルハナバチの導入を図り、実際に飼育・管理を行うことで、地域での在来種の利用定着を図った。	・平成28年度 検討会　4回（4,8,12,3月） 現地栽培講習会　2回（9,3月） 在来種の導入　17人 ・平成29年度 検討会　2回（8,1月） 現地栽培講習会　2回（9,3月） 在来種の導入農家　18人 ・平成30年度 現地栽培講習会　2回（9,3月） 在来種の導入農家　19人 ・平成31年度（R元年度） 現地栽培講習会　2回（9,3月） 在来種の導入農家　14人	在来種マルハナバチの利用農家数を27%以上とする。	6%（65人中4人）	21%（64人中14人） ※参考 ホルモン処理を実施した農家数 31人 マルハナバチ利用者のうち在来種利用者の割合 42%（33人中14人）	27%（65人中18人）	73% ※参考 ホルモン処理を実施した農家を除いた割合で算出した場合 168%	セイヨウオオマルハナバチを使用している農家に、当該野菜部会および農協、県の指導のもと、実際に在来種マルハナバチへの切替えを推進し飼育･管理を行った。 在来種導入箱数 H28年度　４箱 H29年度　３９箱 H30年度　４５箱 H31年度　４６箱	目標年度における農家数は設定した成果目標を下回ったが、H28の達成度合は92.9%、H29は102.0%、H30は109.3%と概ね目標を達成しており、また、地区では在来種の導入箱数についても年々増加している。R元年度において成果目標を達成できなかった要因は、高温による着果不良への懸念から当該年度は外来種、在来種に関わらずホルモン処理に切り替えた農家が多かったためであった。（R元年度のマルハナバチ利用者のうち在来種利用者の割合は42%であり、目標の27%を上回る。）このため、農政局としては事業は適正に執行されたものと評価し、改善計画の作成は求めないこととしたい。